



今季初めて、野鳥の糞便から 低病原性鳥インフルエンザが検出！

千葉県で採取された野鳥の糞便から、低病原性鳥インフルエンザ（H7亜型）が検出されました。

また、韓国でも、野鳥の糞便から本病ウイルス（H5亜型）が確認されており、ウイルスの侵入リスクが高まっています。

農場への侵入を防止するため、裏面の発生予防対策の重要ポイントを参考に再度、家きん舎の点検をお願いします。

高病原性鳥インフルエンザ対策

1 野生動物の侵入防止

- ・野生動物が侵入し得る経路がないか、家きん舎を定期的に点検し、破損部位があればすぐに修理

2 消毒の徹底

- ・家きん舎ごとに、衣服や靴を交換、消毒
- ・踏込消毒槽の消毒薬はこまめに交換

3 部外者の立入り制限

- ・農場への部外者立入り制限



飼養している家きんに異状がみられた場合には、直ちに獣医師または家畜保健衛生所に連絡ください。

発生予防対策の重要ポイント

農場内に入る車両は、
例外なく消毒を実施しているか。



確実な車両消毒の実施



看板やゲートの設置

農場外



壁や床の破損がないか(外の
光が漏れている所は要注意)

防鳥ネットの破れがないか



排水溝等からの侵入防止
対策(鉄格子の設置)



集卵用コンベアや除糞ベルトの
開口部の隙間対策。(写真は、
稼働時以外はカバーを設置し、
隙間をなくしている事例。)

小型の野生動物が
侵入し得る経路がないか。



家きん舎内に入る人・
物(長靴、衣服など)は、
例外なく消毒を実施し
ているか。



踏込消毒槽の設置・消毒液の交換
衣服や長靴の更衣・履替え



野生動物が隠れる場
所を作らないように整
理された鶏舎周辺



野鳥の休息・避難場所や
小動物の移動経路となる
樹木や藪がないか

家きん舎周辺は野生動物を寄せ付けない
よう、整理・整頓しているか。